

東京農業大学大学院の名称及び教育研究上の目的

博士前期課程・修士課程

＜農学研究科＞

本大学院農学研究科博士前期課程・修士課程は、国内外の農学諸分野におけるフロンティアとして、見識と実力、さらに健全で調和のとれた人間性を有する研究者および高度専門技術者の人材育成を目指し、実学主義教育のもと論理的思考力と問題解決能力の獲得および向上を図り、生物資源、生命科学、環境科学、健康科学ならびに経営・経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。

＜農学専攻＞

農学専攻博士前期課程は、環境の保全・保護を図りつつ、安全で高品質な農作物を安定的に生産・流通させる技術の確立を目指し、農作物およびそれにかかわる微生物や昆虫類に関する専門的な学理を実学的な視点から教育・研究することにより、卓越した発想および問題解決の能力と強い使命感を持って次代を担う専門技術者、教育者、研究者などの人材を養成することを目的とする。

＜畜産学専攻＞

畜産学専攻博士前期課程は、動物科学について、生体から分子まで様々なレベルで教育と研究を実践する。畜産関連の幅広い分野で様々な課題に対応できる、高度な知識と技術を合わせ持つ人材を養成することを目的とする。

＜バイオセラピー学専攻＞

バイオセラピー学専攻博士前期課程は、人の生活と自然環境の保全と保護が調和する社会の構築を目指す「環境農学」および動植物の利活用によって人の生活の質や心身の健康の向上と改善を目指す「福祉農学」の視点に立った教育研究を展開する。これら教育研究の目的のもと高度な専門知識と技術を修得することで、持続的な社会のあり方を提言できる豊かな感性と問題解決能力を有し、社会の現場で実務的役割を果たす知的リーダーとなる人材を養成する。

＜バイオサイエンス専攻＞

バイオサイエンス専攻博士前期課程は、生命科学の最先端知識・技術の修得を通して、創造的・独創的な教育研究を推進し、研究内容を自在に発信・討論できる能力を養成する。それにより、優れた人間性を有し、国内外の研究・産業の発展に貢献する人材の養成を目的とする。

＜林学専攻＞

林学専攻博士前期課程は、地域から地球的規模にいたる森林・林業・林産業・農山村に関する高度な知識と理解力や、森林の資源生産的機能と環境保全的機能に関する総合的で高度な研究能力と管理能力を持ち、森林の保全とその多面的機能の高度利用、生物多様性の保全、循環型社会の形成に関する問題設定・解決能力を備えた人材の養成を目的とする。

＜農業工学専攻＞

農業工学専攻博士前期課程は、環境に配慮した地域資源の有効利用と循環型社会の構築を理念とし、これらを技術的に具現するために農業土木および農業機械分野の学問を基軸とした実践的な教育研究を行い、国内のみならず海外の現場での技術開発・問題解決と学術的な研究を両立できる能力を持った人材の養成を目的とする。

＜造園学専攻＞

造園学専攻博士前期課程は、庭園・公園などの基本的造園空間に加え、都市から自然地域までの快適な環境を実現するための計画・デザイン思想と技術力、環境を構成する植物をはじめとした生物資源や景観計画・建設技術に関する知識と応用能力を高め、教育研究活動を通じて、豊かな地域社会と社会資本の形成に貢献する人材の養成を目的とする。

＜国際農業開発学専攻＞

国際農業開発学専攻博士前期課程は、自然科学および社会科学にわたる広範な学問領域を統合する総合的アプローチにより、農業開発や国際協力にかかわる問題の解決を図るための論理的な思考力と実践力を持つとともに、異なる文化や習慣を尊重した活動を展開できる人材を育成することを教育目標とする。

＜農業経済学専攻＞

農業経済学専攻博士前期課程は、農業および食料、環境の諸分野において、経済・経営・社会・地理・歴史等の社会科学の多面的な知識を持ち、変化する社会・経済情勢に的確に対応のできる分析能力を有する高度専門職業人の養成を目的とする。

＜国際バイオビジネス学専攻＞

国際バイオビジネス学専攻博士前期課程では、人類の生存に最も重要な食・農・環境にかかわるビジネス（バイオビジネス）を対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学の手法で分析するとともに、修得した専門知識

と言語能力によってバイオビジネスの経営展開を牽引するビジネスリーダーや理論構築を志向する研究者など、バイオビジネスの持続的発展に寄与する人材の養成を目的とする。

＜応用生物科学研究科＞

本大学院応用生物科学研究科博士前期課程は、専門領域における確かな知識・論理的思考力を基盤とし、応用生物学に関連した課題を高度な観点から探求し、問題の解決に向けた柔軟な判断力・遂行能力を修得させることを教育研究上の目的とする。

＜農芸化学専攻＞

農芸化学専攻博士前期課程は、必修の基礎科目として配当する「生体機能化学ⅠおよびⅡ」において植物、動物、昆虫、微生物など生物の有する多彩な化学的機能を深く学び、さらに「土壌肥科学・植物生産化学・応用微生物学・食料資源理化学・生物有機化学・栄養生化学」などの各専門領域における確かな知識と技術を修得する。これらを通じ、人類の生活に関わる研究課題を論理的に解決できる能力を修得させることを教育上の目的とする。

＜醸造学専攻＞

醸造学専攻博士前期課程では、必修の基礎科目として配置する「研究倫理」および「プレゼンテーション法」により研究者や技術者として必要な倫理および能力を身に付ける。「醸造学概論」および「応用微生物学特講」において醸造学専攻の研究分野に関する基礎的な内容を学ぶ。さらに特論科目を履修し、該当分野の造詣を深めると同時に英語論文を教材として用いることにより英語の読解力を養う。これらの科目と有機的なつながりを持ちながら研究科目を履修することにより、研究能力および問題解決力を修得させることを教育上の目的とする。

＜食品安全健康学専攻＞

食品安全健康学専攻博士前期課程においては、教育研究の柱とする「食品の安全性」と「食品の機能性」の両分野を学ばせるために、必修の基礎科目として「食品安全学特論」と「食品機能科学特論」を配当する。さらに、それ以外の専門科目等を配当し、それらの履修により両分野の理解を深めさせる。以上により、食品成分のリスクの意味を理解した上で機能性を評価することができ、難度の高い問題を解決できる能力を修得させることを教育上の目的とする。

＜食品栄養学専攻＞

食品栄養学専攻博士前期課程は、必修の特論科目として配当する「食品栄養学特論」と「人間栄養学特論」において、教育研究の柱となる「食品栄養学」と「人間栄養学」の両分野を横断できる幅広い教養を修得させる。また、それ以外の基礎科目や特論科目等の履修により、各分野の造詣を深める。それにより、ヒトの健康の保持・増進ならびに疾病の予防・改善に向けた食の機

能性の利用や栄養管理を行うための専門的知識・技術と研究能力を修得させることを教育上の目的とする。

＜生物産業学研究科＞

本大学院生物産業学研究科博士前期課程は、幅広い学問領域の知識を備え、高度な専門知識と能力及び創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ人材の育成を目指し、生物産業学に関する実学の精神と文理融合の教育体系に基づき、北方圏の地域性を活用した農林水産に関わる生物資源、バイオテクノロジー、経営経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。

＜生物生産学専攻＞

生物生産学専攻博士前期課程は、農学、林学、畜産学に自然生態学カテゴリーを加え生物多様性の保全を含めた生物生産に係わる資源開発、環境共生等について高度に研究・教育する。その理念の基に資源利用・開発、エコロジー、バイオテクノロジー等の観点から様々な課題を取り上げ、その専門性の高い指導的役割を果たせる人材の養成を目的とする。

＜アクアバイオ学専攻＞

アクアバイオ学専攻博士前期課程は、オホーツク海や沿岸海跡湖における水産資源の持続的供給を可能にする海洋生態系や環境の保全を実践できる人材の育成を目標とし、旧来の水産学や環境学にはない氷結する海域に焦点をあてたオホーツク水産生物学とオホーツク水圏環境学を柱とした知識や技術を身につけ、専門性の高い指導的役割を果たせる人材の養成を目的とする。

＜食品香粧学専攻＞

食品香粧学専攻博士前期課程は、食品や香粧品の製造、品質管理について化学的視野から研究を行い、また食品、香粧品の機能について分子生物学や化学的手法を用いて研究する。これらを通して資源利用・製品開発から、保蔵、安全管理、機能解析まで、食生活と健康推進に関わる分野で活躍できる高度な研究能力を備えた人材の養成を目的とする。

＜産業経営学専攻＞

産業経営学専攻博士前期課程は、地域生物産業の発展を支える経営学・経済学の理論と先端的手法を修得し、社会科学的分野から、地域資源を活用して多様な発展を遂げつつある地域生物産業を担う企業の持続的発展と問題解決に寄与する実学に基づく研究活動を行い、産業経営学の研究者、高度な専門職業人、経営コンサルタント等の人材の養成を目的とする。

博士後期課程

＜農学研究科＞

本大学院農学研究科博士後期課程は、国内外の農学諸分野におけるフロンティアとして、見識と実力、さらに健全で調和のとれた人間性を有する研究者および高度専門技術者の人材育成を目指し、実学主義教育のもと論理的思考力と問題解決能力の獲得および向上を図り、生物資源、生命科学、環境科学、健康科学ならびに経営・経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。

＜農学専攻＞

農学専攻博士後期課程は、環境の保全・保護を図りつつ、安全で高品質な農作物を安定的に生産・流通させる技術の確立を目指し、農作物およびそれにかかわる微生物や昆虫類に関する専門的な学理を実学的な視点から教育・研究することにより、卓越した発想・問題解決能力と強い使命感を持ち、現場で発生する種々の問題に柔軟に対応して、国際的にも活躍できる独立した研究者、教育者、専門技術者などの人材を養成することを目的とする。

＜畜産学専攻＞

畜産学専攻博士後期課程は、動物科学について、生体から分子まで様々なレベルで教育と研究を実践する。動物・畜産関連の幅広い分野の諸問題に対し、自ら考え、検証し、対応することができ、国際的にも活躍の場を広げることができる人材を養成することを目的とする。

＜バイオセラピー学専攻＞

バイオセラピー学専攻博士後期課程は、人の生活と自然環境の保全と保護が調和する社会の構築を目指す「環境農学」および動植物の利活用によって人の生活の質や心身の健康の向上と改善を目指す「福祉農学」の視点に立った教育研究を展開する。これら教育研究の目的のもと社会に潜む解決すべき課題を見出し、高度な専門知識と技術に基づいた研究によって立証し、その解決に向けた方策を社会に提言できる自立した研究者または教育者となる人材を養成する。

＜バイオサイエンス専攻＞

バイオサイエンス専攻博士後期課程は、生命科学の最先端知識・技術を駆使しながら、新規な仮説の提起と検証を通して、高度に創造的・独創的な教育研究を推進し、研究成果を国際的に発信・討論できる能力を養成する。それにより、優れた人間性を有し、国内外の大学・研究機関・企業等において研究・開発のリーダーとして貢献する人材の養成を目的とする。

＜林学専攻＞

林学専攻博士後期課程は、地域から地球的規模にいたる森林・林業・林産業・農山村に関する高度な知識と理解力や、森林の資源生産的機能と環境保全的機能に関する総合的で高度な研究能

力と管理能力を持ち、森林の保全とその多面的機能の高度利用、生物多様性の保全、循環型社会の形成に関する問題設定・解決能力および問題解決に向けてのリーダーシップを備えた人材の養成を目的とする。

＜農業工学専攻＞

農業工学専攻博士後期課程は、環境に配慮した地域資源の有効利用と循環型社会の構築を理念とし、これらを技術的に具現するために農業土木および農業機械分野の学問を基軸とした実践的な教育研究を行い、国内のみならず海外の現場での技術開発・問題解決と学術的な研究を両立できる高度な能力を持った人材の養成を目的とする。

＜造園学専攻＞

造園学専攻博士後期課程は、庭園・公園などの基本的造園空間に加え、都市から自然地域までの快適な環境を実現するための計画・デザイン思想と技術力、環境を構成する植物をはじめとした生物資源や景観計画・建設技術に関する知識と応用能力を高め、教育研究活動を通じて、豊かな地域社会と社会資本の形成に貢献できる高度な教育者、研究者、専門的技術者などの人材の養成を目的とする。

＜国際農業開発学専攻＞

国際農業開発学専攻博士後期課程は、高度な専門知識をふまえて課題を設定し、研究を企画・遂行できる人材、さらには国内外の農業開発ならびに国際協力分野でリーダーシップをもって活躍できる人材を育成することを教育目標とする。

＜農業経済学専攻＞

農業経済学専攻博士後期課程は、農業および食料、環境の諸分野において、社会科学の多面的な知識に加え、特定の専門領域に関して高度な専門知識を持ち、複雑な社会・経済情勢の中からの確かつ体系的に情報を整理する能力と論理的思考能力を有する自立した研究者、または高度専門職業人の養成を目的とする。

＜国際バイオビジネス学専攻＞

国際バイオビジネス学専攻博士後期課程では、人類の生存に最も重要な食・農・環境にかかわるビジネス（バイオビジネス）を対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学の手法で分析するとともに、高度な専門知識と言語能力、主体的な研究遂行能力によって新たな理論構築に貢献できる研究者など、バイオビジネスの持続的発展に寄与する人材の養成を目的とする。

＜環境共生学専攻＞

環境共生学専攻博士後期課程は、人類をはじめとする全ての生物が、地球環境の中で均衡のとれた持続可能な共生関係を維持するための研究を推進する。自然科学、社会科学および人文科学が融合した総合科学分野での研究を行い、環境共生に関する総合的・複合的な視野を持ち高度な研究能力を有した人材の養成を目的とする。

＜応用生物科学研究科＞

本大学院応用生物科学研究科博士後期課程は、広範な視野と専門領域における豊かな学識を基盤とし、応用生物学に関連した国際的かつ高い倫理性を有した研究成果を上げ、その社会的還元により、当該分野の先導的研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力を修得させることを教育研究上の目的とする。

＜農芸化学専攻＞

農芸化学専攻博士後期課程は、必修の基礎科目として配当する「英語論文作成」において、「土壌肥科学・植物生産化学・応用微生物学・食料資源理化学・生物有機化学・栄養化学」などの各専門領域における英語論文の読解・作成能力を向上させ、さらに各専門領域における高度な知識と研究能力を修得する。これらを通じ、人類の生活に関わる研究課題を論理的に解決できるのみならず、リーダーシップを発揮し世界で活躍する能力を修得させることを教育上の目的とする。

＜醸造学専攻＞

醸造学専攻博士後期課程では、広範な視野と専門領域における豊かな学識を基盤とし、応用生物学に関連した国際的かつ高い倫理性を有した研究成果を上げ、その社会的還元により、当該分野の先導的研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力を修得させることを教育上の目的とする。

＜食品安全健康学専攻＞

食品栄養学専攻博士後期課程においては、「生体分析科学後期特論」、「リスク評価学後期特論」、「食品開発学後期特論」、「生理活性物質学後期特論」、「生理機能学後期特論」、「生体環境解析学後期特論」、「ケミカルトキシコロジー特論」といった各専門科目などを履修することにより、各専門領域の造詣を深めさせる。それにより、グローバルで、より高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決に向けてのリーダーシップを備えさせることを教育上の目的とする。

＜食品栄養学専攻＞

食品栄養学専攻博士後期課程は、知的財産、研究倫理、研究計画策定に関する必修科目と、それ以外の特論科目を履修することで、研究・産業発展などで指導的立場を担える高度な専門家となるために必要と考えられる領域の造詣を深める。それにより、広範かつ豊富な専門的知識・技術と研究能力を習得させ、次世代を担うリーダーとしての素養を涵養することを教育上の目的とする。

＜生物産業学研究科＞

本大学院生物産業学研究科博士後期課程は、幅広い学問領域の知識を備え、高度な専門知識と能力及び創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ人材の育成を目指し、生物産業学に関する実学の精神と文理融合の教育体系に基づき、北方圏の地域性を活用した農林水産に関わる生物資源、バイオテクノロジー、経営経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。

＜生物産業学専攻＞

生物産業学専攻博士後期課程は、博士後期課程として、前期課程に配された「生物生産学専攻」「アクアバイオ学専攻」「食品香粧学専攻」「産業経営学専攻」の4専攻を統合した文理融合型の専門教育体系を敷いている。本専攻は、生態系の保全、農水産、加工開発、経営流通のいずれかの側面を深く掘り下げつつ、包括的な観点から生物産業の実践的な学術理論・技能を身に付けた指導的人材の養成を目的とする。